

### 3 館外奉仕

#### 昭和35年度福島県立図書館館外奉仕活動の基本方針

県立図書館が、全県下を対象として実施している事業は(1)自動車文庫による県内 5コース別巡回。(2)16出張所を通じての青少年巡回文庫の実施。(3)本館および 6分館の団体貸出文庫の三つである。

それらの事業のうち、自動車文庫は昭和29年に、青少年巡回文庫は昭和30年に、それぞれ創設され、今日に及んでいる。自動車文庫は、現在の駐車場が、町村合併前に決められただけに、その後の町村合併の進展によって村によっては一つのところもあり、三つのところもありはなはだしいのは駐車場から駐車場まで車で15分位というところも幾つかあった。

利用者側からは「年 2回位の巡回で一駐車場わずかに40冊位の貸出では」という不満も出ており、「少くとも隔月に 1回、年 6回位は巡回してほしい」という利用者側の強い要望があった。

こういう不満や要望を充分反省しつつ、今日までの県立図書館の奉仕活動をながめてみると、いちじるしく不均衡であったことに気がつく。たとえば、安積郡の場合を取りあげてみると、青少年巡回文庫、自動車文庫、そして郡山市に分館がある、といったように三つの奉仕活動が折り重なって安積管内に奉仕している。だが、これを伊達郡についてみると青少年巡回文庫と貸出文庫の対象にはなっているが、自動車文庫の対象になっていない。こういう不均衡は他にもみられる。西白河郡もそうである。こうした不均衡は是正しなければならない。

更に、従来のような「薄く広い」撒水車で全県下に水をパラパラ撒いて来たような奉仕の仕方では、その効果は余り期待できない。

そこで、本年度は、次のような方針で進むことにした。分館のある六つの出張所（北会津・南会津、安積、西白河、相馬、石城）には青少年巡回文庫を中止し、16出張所から10出張所に縮め、なおかつ自動車文庫でひんぱんに巡回するにはもっとも不便なところ（両沼、東白川石川、双葉）を選び、その地域には青少年巡回文庫を重点的にまわすこととした。したがって、残りの 6出張所（信夫、伊達、安達、田村、岩瀬、耶麻）をもって自動車文庫の主なる対象とした。

#### (A) 貸出文庫

##### 利用状況

昭和35年 1月～12月

区分	館別	本館	郡山分館	会津若松分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計
貸付件数		227	127	29	63	53	70	38	607
貸付冊数		6,170	2,617	493	1,332	1,445	1,928	483	14,468
利用人員		3,587	4,898	576	889	1,627	792	622	12,991
利用延冊数		9,186	4,899	1,100	2,681	2,988	1,609	544	23,007

これまでの自動車文庫は、県内を 5コースにわけ、70カ所に駐車場を設置してあったが、それらのうち54駐車場は当然中止しなければならなくなり、それらの駐車場は、今後分館の貸出文庫か青少年巡回文庫のいずれかを利用していくことになる。しかし、中止する駐車場に対しては、従来までの仕事をなっていたいただき、その努力によってその地域にめばえた読書会に対して、読書会活動に関する相談に応じたり、貸出文庫や青少年巡回文庫の利用状況などをうかがわせていただきたために、年1回位は従来の駐車場を巡回する余地は残しておくことにした。

##### A 貸出文庫

この貸出文庫は、登録を受けた読書グループ並びに館長または分館長が適當であると認めた機関、および団体に対して貸出すもので、本館と 6分館（郡山、会津若松平、白河、相馬、田島）でそれぞれ業務を取扱い、申請に応じて 1回30冊を限度に 1ヵ月から 2ヵ月の期間、貸出を行っているものである。

なお業務取扱区域を一部変更し、従来白河分館の業務取扱区域にあった石川郡を本年度から郡山分館の業務取扱区域に編入した。

本年度は、各分館に対し、図書 300冊ずつ、計 1,800冊を配置した。

A表についてみると、昭和35年 1月から12月までの 1ヵ年の利用状況は貸付件数 607件、利用人員12,991人、利用冊数23,007冊で前年に比較し若干の増を示している

B表については、前年同様、読書会の利用が最も多く次ぎが青年会、官庁会社、婦人会、公民館の順となっている。

C表についてみると、本館を除いて各分館とも分館所在地の利用が多く、分館所在の地域外、つまり担当地区内の町村の利用が少ないことは遺憾である。これは改めていきたい。

D表の男女別の別用状況については、前年度までは男の利用が若干多かったが、本年は男45.5%、女54.5%と逆に女の利用が多く、婦人層の読書に対する関心が高まっていることがうかがわれる。

E表の読書傾向をみると、利用団体の大部分が自由選択の方法によるもので、最も多く読まれたのは文学関係次ぎが社会科学関係、歴史、芸術、哲学、産業その他の順となっている。